

北陸のなつかしい人たち

山 田 昌 雄

私は農水省の研究職員として多くの研究機関に勤務したが、北陸農試には昭和42年11月から49年11月まで病害第1研究室長として、また58年6月から61年4月まで環境部長として勤務した。都合、10年間高田にいたことになり、私の37年間の農水省勤務のうちでは最も長かった所である。その間、毎年北陸病害虫研究会に出席し、又種々の会務に携わった。私にとっては北陸農試と研究会の記憶は渾然一体となっていて切り離す事ができない。その北陸での記憶の奥には、新潟の池野早苗さん、上田勇五さん、富山の望月正巳さん、石川の川瀬英爾さん、福井の友永 富さん、そして北陸農試の環境部長だった田村市太郎さんら、大先輩の懐かしい面影が浮かんで来る。

池野さんに初めてお会いしたのは、実は北陸へ来てからではなくて、東北農試盛岡試験地でコムギのさび病の仕事をしていて、たしか昭和30年の初夏にコムギ赤さび病菌の採集で新潟から福井までの日本海沿岸を歩いた時であった。長岡駅のホームに池野さんが迎えに出て下さって、若輩の私は大変恐縮した。これから出張されるところで、新潟県下の調査の段取りをして、細かい指示を下さった。その時は佐渡へ渡って、佐渡支場の安部五一さんにもたいへんお世話になった。

その旅で初めて北陸農試に行ったが、小野小三郎さんと飯田 格さんにお会いしてお世話になり、その後もたいへん可愛がって頂いた。その小野さんも今は亡い。そして石川ではお若い頃の田村 実さんにお会いした。田村さんはまだ独身で伯父さんが県庁の課長さんをしておられて、そのお宅に住んでおられ、私もそこに泊めて頂いた。その時、一緒に風呂に入って背中を流して頂いた。私もお返しに流そうとしたが田村さんに固辞された。あの時やはり田村さんの背中を流せばよかったと、今でも気になっている。田村さんは今もその頃と少しも変わって居られないような気がする。

上田さん、望月さん、川瀬さん、友永さん、そして田村さんにはいずれも北陸農試へ行ってからお世話になった。小野さんもそうだったようだが、田村さんは研究会報の編集を実に熱心にやっておられた。虫害の専門なのに病害の論文も詳細に読んで手を加えておられた。私が後で時々元に戻しているのを実はちゃんにご存じだった。私は勤務地の関係で、北日本、関東東山の病害虫研究会にも関わったが、とにかく大きくて、大会でも懇親会でも人が多すぎた。その点、北陸は家庭的でよかった。年1度の大会の際には田村部長と共に参加して、各県の皆さんとご一緒になった。懇親会の後に一部屋に集まってこたつに入って、大先輩の皆さんの軽妙な座談を謹聴して大いに勉強になった。皆さんが仕事と生活が一体になっていて、それぞれの仕事を大いに楽しんでおられるのに感心した。のちに私も、大先輩の皆さんと同じ年配になり、また同じ立場になったが、諸先輩の貫禄には到底及ばない事を痛感した。

私は京都で生まれて東京で育ったが、実は本籍地は福井である。両親とも福井市の産で、祖父母とも一緒だったから幼い頃から意識せずに福井弁の中で育った。福井には寺があり、親戚が住んで居り、足羽山には福井藩の剣道指南役で維新後に警察に入り、名探偵と謳われた曾祖父をたたえた「発摘如神」という石碑が立っている。私の中には濃厚に北陸人の血が流れているらしい。その北陸に最も長く勤務したというのは縁というものであろう。これからも北陸の皆さんに宜しくお願ひしたい。